



衣川 直彦

## 『梵鐘（ぼんしょう）の出征』

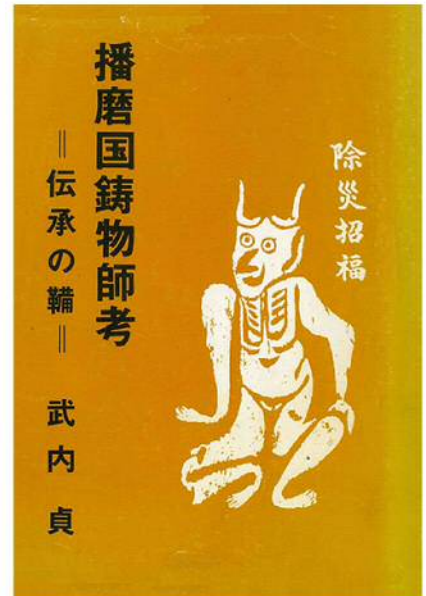
昭和18年12月 8日、永年、天満神社の鐘楼に吊り下げられていた梵鐘は元鶴居村長 上野〇〇氏、甘地村長 中山〇〇氏、氏子総代 古家〇〇氏、田隅〇〇氏、地元鶴居小学校児童らに送られ出征しました。姫路第十師団へ献納された梵鐘は、帰還することなく二度と見ることは出来ません。

第十師団に納められた梵鐘は船場本徳寺で法要を行いました。写真は（本徳寺？）境内に並べられた梵鐘（高橋秀吉コレクション）。その後、岡山県宇野港の沖、南 3kmほど離れた、香川県香川郡直島町の三菱鉱業直島精錬所（当時）に送られ材質検査を受け溶解され軍艦や兵器の軸受け、機械部品の素材になってしまいました。

梵鐘が我が国に伝わったのは奈良時代で、創始期・成長期・発展期と江戸時代末までは比較的順調に推移しますが、以降三度の厄年を迎えます。その第一は黒船の来航、ペリーが艦隊を率いて浦賀に姿を現わしてから1年半後の安政 2年（1855年）、江戸幕府から出された「毀鐘鑄砲(きしょうちゅうほう)令」です。諸国の梵鐘を大砲、小砲に改鑄せよというものですが、実施されたかは疑問が残ります。前記の神崎郡市川町小室の天満神社には「恐れながら嘆願口上書」という古文書（安政 3年）が残っています。それには、宝永 6年から近郷で寄付金により鑄造した梵鐘で、緊急時の早鐘として使用している重要な鐘なので、残して欲しいと嘆願。返事もなくこの梵鐘は昭和18年まで撞き鳴らされていました。第二は明治維新後に発生した一連の動き、明治 2年（1869年）の廃仏毀釈。小室の天満神社は寺ではないので、この影響は受けませんでした。しかし近所の蓮浄寺の記事に明治 9年廃仏毀釈運動のあおりで、氷上郡青雲寺より蓮浄寺に梵鐘が売られて来た。とあります。

第三は第2次世界大戦の金属回収令（1941年）、坪井良平氏の研究による、供出された梵鐘から推測すると、全国に 5万口ほどの梵鐘があったのではないかと推測され、その90%近くが供出された。国宝と重要美術品に指定されたもの、慶長末年以前の紀年銘を有するもの、特に価値のあるものは保存を許可された。残存し得たものは慶長末年以前のもので約 500口、その他保存を許可されたものや、終戦時に未だ破壊されずに残ったものを合せて 3千～ 6千口が残っていたと推測されています。

ちなみに、第十師団は明治29年に姫路城内に置かれ、現在、姫路市美術館として使われているレンガ造りの建物は明治38年に作られた兵器庫です。私の母校は美術館の筋向かいにあった木造の兵舎で、学生だった頃冬場はすきま風に悩まされた校舎でした。



寺の境内に集められた梵鐘  
高橋秀吉コレクション

### 参考図書

播磨国鑄物師考 =伝承の轡= 武内 貞 著 昭和55年 中央出版  
新訂 梵鐘と古文化 坪井良平 2014年 7月 ビジネス教育出版社

いつもお世話になっている高橋様より、小室の天満神社住所は現在も神崎郡市川町小室であると指摘。（現 神河町）は誤りです。削除をお願いします。

来て！見て！ふれて！

ふしぎ体感

「鉄のふしぎ博物館」



むらの鍛冶屋®



何でもお気軽にお尋ねください！！